

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業務

政策名	物流・産業	25年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 海務課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト				
事務事業名	無線通信事務	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7880	
目的	対象(誰・何を)	入出港船舶及び港湾関係者				事業 期間	昭和26年度～継続
	意図(どうい う状態にしたいか)	安全で効率的な船舶航行を促し、円滑な港湾利用に寄与します。					
概要	名古屋港入出港船舶と国際VHF無線電話(ポータラジオ)により通信を行い、本船動静情報の入手や水先人、タグボート、係留施設、荷役状況等の情報提供を行います。				根拠 法令等	名古屋港管理組合 港湾施設条例及び同 施行規則	
活動内容	取り扱う通信の内容は、①伊良湖水道航路通過時刻、港外や高潮防波堤の到着予定時刻、アンカー位置・時刻等の本船情報 ②水先人やタグボートのスケジュール情報 ③先船の荷役状況等の係留施設情報 ④風向、風速等の気象情報等です。また、鍋田ふ頭コンテナターミナル利用船舶に対しては、特定運用方法により、離着岸を円滑に行うための調整を行います。				実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
					関連 シート		

2 DO(実施)

コスト	単位	24年度	25年度	26年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	7,014	7,014	7,240	7,089	消費税率・法定利用料アップ等により増加した。
人件費	千円	55,782	56,064	56,378	56,075	
合計	千円	62,796	63,078	63,618	63,164	

3 CHECK(検証)

指標名		24年度	25年度	26年度	中間目標 30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
適正な通信対応回数率(%) (単年度管理型)	目標	-	-	100	100	適正な通信対応回数÷無線通信回数	
	実績	100	100	100			
事業進捗状況(平成26年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る 目標値どおり 目標値を下回る					
無線通信回数(回)	目標	-	-	-	-		
	実績	24,350	22,644	20,133			
事業進捗状況(平成26年度)		-					
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	無線通信回数が減少していますが、これは、平成24年度に始めた鍋田ふ頭コンテナターミナル利用船舶に対する特定運用方法により、離着岸を円滑に行うための調整が普及し、スムーズな通信が行われるようになったことが大きな原因と考えられます。 無線通信回数が減少しても適正に通信対応しており、事業の目的は、達成されていると考えます。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならぬ事業か?	○ ポータラジオの免許は港湾管理者又は海上保安庁に与えられるものであり、本組合が関与する必要がありません。また、無線通信回数はほぼ横ばいで推移しており、利用者ニーズは高いと考えております。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○ 船舶の安全で効率的な航行に寄与することは、施策達成の一翼を担っていると考えます。また、適正な通信対応は100%達成されており、期待通りの成果が得られていると考えます。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 必要最小限の人員により直営で運営しておりますが、平成28年度からは、夜間業務を委託しコスト削減を進めていきます。					

4 ACTION(取組)

課題	27年度以降の取組
他港の状況も参考にし、さらなるコスト削減を検討します。	平成28年度からは、直営による24時間勤務体制から日勤体制に移行し、夜間は業務委託を行います。これによりコスト削減を図ります。